

柳川郷土研究会
会誌「水郷」付録

すいきょう

瓦版

発行所 柳川郷土研究会
柳川市本城町113-1

発行人 武松 豊
編集責任者 金子俊彦



土竜(もぐら)の囁き
 この時期はどんこ舟の行き来が頻繁である。とこころで柳川の魅力はどこ。のんびりと時間を忘れさせる舟の流れかな、それとも右折・左折を繰り返しつつ橋の下を潜り、その先に展開するだろう景色を想像させるところかな。大正ロマンを感じさせる鶴味噌の古い赤煉瓦の倉庫かな。それらを総合したものかな。私は、ただ地元が意識しないものに緑樹の多さがあると思う。

滋賀県長浜市の現助役の吉田一郎さんは、かつて「城内は全体を自然植物公園にすればいい」と助言された。同感である。城内の皆さん、土地がある人は我が家の何かの記念に何かの木を植えて下さい。昭和一四年伝習館に入学した私を感動させた素晴らしい城内の景観があった。透き通った水、芝垣の中に建っていた武家屋敷群、全体の静けさが子供心に現実離れを感じさせたのであろう。いまあの景色は望めない。しかし、木が増えることによって時間を忘れさせる新しい魅力を生み出すものと思う。

(土竜)